

# 店舗向け万引き防止対策講習会および万引き防止対策動画の 効果の検討

—店舗での効果的な万引き対策推進のために—

大久保 智 生<sup>1</sup> ・ 時 岡 晴 美<sup>1</sup> ・ 岡 田 涼<sup>1</sup>  
尾 崎 祐 士<sup>2</sup> ・ 藤 沢 隆 行<sup>2</sup> ・ 有 吉 徳 洋<sup>3</sup>  
西 村 雅 之<sup>4</sup> ・ 松 下 昌 明<sup>4</sup>

## <要 約>

本研究の目的は、店舗での効果的な万引き対策推進のために、店舗関係者を対象として、店舗向け万引き防止対策講習会と店舗向け万引き防止対策動画の効果について検討することであった。店舗向け万引き防止対策講習会に参加した162名と店舗向け万引き防止対策動画を視聴した42名を対象としてアンケート調査を行った。講習会参加者と動画視聴者では、講習会参加者のほうが全体の評価と対策の実感が高いことが明らかとなった。全体の評価と対策の実感との関連では、講習会参加者、動画視聴者ともに、正の関連が認められたことから、全体の評価と対策の実感がつながっていることが明らかとなった。

キーワード：万引き対策、店舗、万引き防止対策講習会、万引き防止対策動画

## 問題と目的

現在、全国的に万引き被害の規模は約4千億円以上と推定されており、万引き防止対策は喫緊の課題となっている。万引き被害は店舗の深刻な経営の悪化を導くことから、店舗での効果的な万引き対策推進が求められている。

店舗での万引き対策について、全国万引犯罪防止機構(2010)は警察庁と協力して大規模な調査を行っている。この調査では、効果的な万引き対策として防犯カメラの存在を挙げている

が、防犯カメラの設置は店舗側がかなりのコストをかけていることから、効果があったと感じている可能性も否めない。「書店経営」編集部(1998)などの調査もあるが、店舗での万引き防止対策を目的とした研究自体が少ないのが実状である。また、少ない研究の中においても、全国万引き犯罪防止機構(2010)の調査や「万引きをしない・させない」社会環境づくりと規範意識の醸成に関する調査研究委員会(2009)の調査のように結論ありきの調査が行われている

1 香川大学教育学部 (Faculty of Education, Kagawa University)

2 全国警備保障 (Zenkoku Security Guard)

3 エワンセキュリティサービス (A-one Security Service)

4 香川県警察 (Kagawa Prefectural Police)

というのが現状である。したがって、店舗での万引き防止対策に関する研究は今後の進展が待たれる分野であるといえる。

万引き犯罪は、香川県においても社会問題になっており、人口1000人当たりの万引きの認知件数が2009年まで7年連続全国ワースト1位であることから、万引き犯罪の防止が喫緊の課題となっている(大久保, 2012)。こうした中、2010年に香川県警察と香川大学の共同事業として子ども安全・安心万引き防止対策事業が立ち上がり、県内の万引きの実態を把握し、その要因を探るために被疑者(大久保・堀江・松浦・松永・江村, 2013; 大久保・堀江・松浦・松永・江村・永富・時岡, 2012)や一般の青少年や高齢者(宮前・堀江・松永・宮前・大久保, 2012; 大久保・宮前・宮前, 2012; 大久保・堀江・松浦・松永・宮前・宮前・岡田・七條, 2012)、青少年の子をもつ保護者(大久保・杉本・時岡・常田・西原, 2012; 大久保・杉本・常田・高橋・岡田・時岡, 2013)、店舗(大久保・堀江・松永・永富・時岡, 2012; 大久保・堀江・松浦・松永・永富・時岡・江村, 2013)を対象に調査を行ってきた。

こうした調査の中でも特に、店舗を対象とした調査では、高額な防犯機器よりも客の観察や店員教育などのソフト面の整備の有効性が示唆された(大久保・堀江・松浦・松永・永富・時岡・江村, 2013)。こうした調査結果に基づき、全件通報制に基づいた万引きされにくい店作りマニュアルを作成し、配布を行った結果、店舗において好評であることが明らかとなった(時岡・大久保・堀江・松永, 2012)。しかし、都市部では全件通報制が機能しないことが予想されることから、未然防止のための声かけマニュアルを作成し、配布を行った(大久保・岡田・時岡・堀江・松下・高橋・尾崎・藤沢, 2013)。そして、警察や弁護士、万引き防止コンサルタントと連携して、多くの店舗に対して、これらのマニュアルの説明を行ってきた。さらに、ベテラン保安員を対象とした調査(大久保・時岡・岡田・尾崎・藤沢・堀江・松下・高橋, 2013; 大久保・岡田・時岡・堀江・松下・高橋・尾崎・

藤沢, 2013)に基づいて、万引きへの態度や万引き防止に必要な知識、万引きをする人の特徴などを明らかにしてきた。

これまでのこうした万引き防止対策事業の活動をもとに、警察、万引き防止コンサルタント、保安員、総合防犯設備士と議論しながら、店舗の万引き対策において有効と考えられる以下の8つの具体的な対策のポイントを抽出した。ポイントは、①挨拶の徹底、②販売意欲の向上、③万引きされやすい商品の認知、④死角の確認と防犯マップの作成、⑤防犯情報の共有、⑥商品の位置の確認、⑦出入り口への注意、⑧防犯機器の活用である。この8つの具体的な対策のポイントを、万引き防止対策講習会で店舗側へ伝えることとした。そして、講習会を開催し、8つの具体的な対策のポイントに対応した形で講習会の万引き防止対策推進への効果について検討することとした。

また、万引き防止対策講習会が開催できない場合も考え、店舗向けの万引き防止対策動画を制作し、講習会と同様に動画の万引き防止対策推進への効果について検討することとした。動画制作に際しては、世代別の万引き防止啓発動画制作(時岡・大久保・有馬, 2012; 大久保・時岡・有馬・松浦・高橋, 2012)の際と同様に、動画製作の経験が豊富で高い技術を有する香西志帆氏に依頼し、警察、万引き防止コンサルタント、保安員と議論しながら、制作を行った。

以上を踏まえ、本研究では、店舗での効果的な万引き対策推進のために、店舗関係者を対象として、店舗向け万引き防止対策講習会と店舗向け万引き防止対策動画の効果について検討することを目的とする。具体的には、まず、店舗向け万引き防止対策講習会の参加者と店舗向け万引き防止対策動画の視聴者で全体の評価と対策の実感が異なるのかについて検討する。次に、店舗向け万引き防止対策講習会と店舗向け万引き防止対策動画で全体の評価が対策の実感と関連するのかについて検討する。

## 方法

### 調査対象と手続き

店舗向け万引き防止講習会に参加した162名(男性141名、女性17名、不明4名)に対してアンケート調査を行った。調査協力者の年齢は平均48.841歳、標準偏差は12.405であった。

店舗向け万引き防止啓発動画を視聴した42名(男性36名、女性5名、不明1名)に対してアンケート調査を行った。調査協力者の年齢は平均47.950歳、標準偏差は11.600であった。

### 調査内容

①全体の評価：講習会全体や動画全体の評価については、「良いと思った」、「勉強になった」、「万引きへの関心が高まった」、「店舗の万引き対策への改善にいかせると思った」の4項目で測定した。回答形式は「全くあてはまらない」(1点)から「非常にあてはまる」(5点)までの5件法である。

②対策の実感：講習会に参加して得た対策の実感や動画を視聴して得た対策の実感については、8つの具体的な対策のポイントに対応した形で、「挨拶の徹底を行っていききたいと思った」、「販売意欲を向上させていききたいと思っ

た」、「万引きされやすい商品を知り、店員間で情報を共有していこうと思った」、「死角を確認して、防犯マップを作成していこうと思った」、「店員間で不審者や手口などの情報を共有していこうと思った」、「商品の位置の確認をし、捨てカゴや移動された商品を片付けようと思った」、「出入り口に注意し、あやしい人が入ってきたら注目しようと思った」、「防犯機器をうまく活用していききたいと思った」の8項目で測定した。回答形式は「全くあてはまらない」(1点)から「非常にあてはまる」(5点)までの5件法である。

## 結果と考察

店舗向け万引き防止対策講習会と店舗向け万引き防止対策動画における全体の評価と対策の実感の比較

店舗向け万引き防止講習会と店舗向け万引き防止啓発動画で全体の評価と対策の実感が異なるのかについて検討するため、t検定を行った(Table 1, 2)。その結果、全体の評価では、「良いと思った」( $t = 5.589, df = 200, p < .001$ )、「勉強になった」( $t = 5.996, df = 200, p < .001$ )、「万

Table 1 講習会及び動画への評価の平均値とt検定結果

	講習会参加者	動画視聴者	t値
良いと思った	4.388 (.663)	3.714 (.805)	5.589***
勉強になった	4.425 (.696)	3.667 (.846)	5.996***
万引き対策への関心が高まった	4.270 (.744)	3.762 (.821)	3.856***
店舗の万引き対策の改善にいかせると思った	4.199 (.782)	3.786 (.813)	3.012**

カッコ内は標準偏差 \*\* $p < .01$  \*\*\* $p < .001$

Table 2 講習会及び動画から得た万引き対策への実感の平均値とt検定結果

	講習会参加者	動画視聴者	t値
挨拶の徹底を行っていききたいと思った	4.500 (.720)	3.976 (1.024)	3.805***
販売意欲を向上させていききたいと思った	4.192 (.763)	3.595 (1.014)	4.154***
万引きされやすい商品を知り、店員間で情報共有していこうと思った	4.231 (.717)	3.643 (.958)	4.371***
死角を確認して、防犯マップを作成していこうと思った	4.058 (.821)	3.262 (1.127)	5.121***
店員間で不審者や手口などの防犯情報を共有していこうと思った	4.271 (.732)	3.595 (.857)	5.109***
商品の位置の確認をし、捨てカゴや移動された商品を片付けようと思った	4.293 (.727)	3.786 (.782)	3.951***
出入り口に注意し、あやしい人が入ってきたら注目しようと思った	4.210 (.725)	3.476 (1.110)	5.151***
防犯機器をうまく活用していききたいと思った	4.064 (.793)	3.190 (1.174)	5.673***

カッコ内は標準偏差 \*\*\* $p < .001$

引き対策への関心が高まった」(t=3.856, df=199, p<.001)、「店舗の万引き対策の改善にかせると思った」(t=3.012, df=196, p<.01)において、講習会参加者のほうが動画視聴者よりも有意に得点が高かった。対策の実感では、「挨拶の徹底を行っていききたいと思った」(t=3.805, df=198, p<.001)、「販売意欲を向上させていききたいと思った」(t=4.154, df=191, p<.001)、「万引きされやすい商品を知り、店員間で情報を共有していこうと思った」(t=4.371, df=196, p<.001)、「死角を確認して、防犯マップを作成していこうと思った」(t=5.121, df=196, p<.001)、「店員間で不審者や手口などの情報を共有していこうと思った」(t=5.109, df=195, p<.001)、「商品の位置の確認をし、捨てカゴや移動された商品を片付けようと思った」(t=3.951, df=197, p<.001)、「出入り口に注意し、あやしい人が入ってきたら注目しようと思った」(t=5.151, df=197, p<.001)、「防犯機器をうまく活用していききたいと思った」(t=5.673, df=196, p<.001)において、講習会参加者のほうが動画視聴者よりも有意に得点が高かった。

以上の結果から、講習会参加者、動画視聴者ともに平均値の3を超えていることが明らかとなった。また、講習会参加者と動画視聴者で

は、講習会参加者のほうが全体の評価と対策の実感が高いことが明らかとなった。このことから、万引き防止対策講習会、万引き防止対策動画ともにある程度の効果があることが示唆された。したがって、講習会、動画ともに、店舗における万引き防止対策を推進するという目的に適ったものであるといえる。さらに、万引き防止対策講習会と万引き防止対策動画では、講習会の方が動画よりも効果的であることが示唆された。講習会では、聴衆の反応に応じて受け答えも交えながら進めることができるのに対し、動画は店舗での人の動きはわかりやすいが、ただ視聴するだけであることから評価が低くなったといえる。また、動画では、いくつかのポイントに重点をおいた作りであるため、具体的な対策のポイントの実感が4点に近いものと3点に近いものに分かれたと考えられる。こうしたことも踏まえると、できるだけ動画よりも講習会を開催し、万引き防止対策を推進していくことが重要であるといえる。

店舗向け万引き防止対策講習会と店舗向け万引き防止対策動画における全体の評価と対策の実感との関連

店舗向け万引き防止対策講習会と店舗向け万引き防止対策動画において全体の評価が対策の実感とつながっているのかを検討するため、講

Table 3 講習会から得た万引き対策への実感と講習会への評価との関連

	良いと思った	勉強になった	万引き対策への関心が高まった	店舗の万引き対策の改善にかせると思った
挨拶の徹底を行っていききたいと思った	.612***	.596***	.634***	.702***
販売意欲を向上させていききたいと思った	.631***	.580***	.655***	.644***
万引きされやすい商品を知り、店員間で情報共有していこうと思った	.672***	.659***	.706***	.733***
死角を確認して、防犯マップを作成していこうと思った	.609***	.620***	.594***	.626***
店員間で不審者や手口などの防犯情報を共有していこうと思った	.598***	.637***	.622***	.658***
商品の位置の確認をし、捨てカゴや移動された商品を片付けようと思った	.641***	.613***	.677***	.599***
出入り口に注意し、あやしい人が入ってきたら注目しようと思った	.629***	.634***	.626***	.583***
防犯機器をうまく活用していききたいと思った	.639***	.649***	.613***	.523***

\*\*\* p < .001

習会参加者と動画視聴者ごとの全体の評価と対策の実感のピアソンの相関係数を算出した (Table 3, 4)。

講習会参加者において、「良いと思った」は「挨拶の徹底を行っていききたいと思った」( $r = .612, p < .001$ )、「販売意欲を向上させていききたいと思った」( $r = .631, p < .001$ )、「万引きされやすい商品を知り、店員間で情報を共有していこうと思った」( $r = .672, p < .001$ )、「死角を確認して、防犯マップを作成していこうと思った」( $r = .609, p < .001$ )、「店員間で不審者や手口などの情報を共有していこうと思った」( $r = .598, p < .001$ )、「商品の位置の確認をし、捨てカゴや移動された商品を片付けようと思った」( $r = .641, p < .001$ )、「出入口に注意し、あやしい人が入ってきたら注目しようと思った」( $r = .629, p < .001$ )、「防犯機器をうまく活用していききたいと思った」( $r = .639, p < .001$ )と有意な正の関連が認められた。「勉強になった」は、「挨拶の徹底を行っていききたいと思った」( $r = .596, p < .001$ )、「販売意欲を向上させていききたいと思った」( $r = .580, p < .001$ )、「万引きされやすい商品を知り、店員間で情報を共有していこうと思った」( $r = .659, p < .001$ )、「死角を確認して、防犯マップを作成していこうと思った」( $r = .620, p < .001$ )、「店員間で不審者や手口などの情報を共有していこうと思った」( $r = .637, p < .001$ )、「商品の位置の確認をし、捨てカゴや移動された商品を片付けようと思った」( $r = .613, p < .001$ )、「出入口に注意し、あやしい人が入ってきたら注目しようと思った」( $r = .634, p < .001$ )、「防犯機器をうまく活用していききたいと思った」( $r = .649, p < .001$ )と有意な正の関連が認められた。「万引き対策への関心が高まった」は、「挨拶の徹底を行っていききたいと思った」( $r = .634, p < .001$ )、「販売意欲を向上させていききたいと思った」( $r = .655, p < .001$ )、「万引きされやすい商品を知り、店員間で情報を共有していこうと思った」( $r = .706, p < .001$ )、「死角を確認して、防犯マップを作成していこうと思った」( $r = .594, p < .001$ )、「店員間で不審者や手口などの情報を

共有していこうと思った」( $r = .622, p < .001$ )、「商品の位置の確認をし、捨てカゴや移動された商品を片付けようと思った」( $r = .677, p < .001$ )、「出入口に注意し、あやしい人が入ってきたら注目しようと思った」( $r = .626, p < .001$ )、「防犯機器をうまく活用していききたいと思った」( $r = .613, p < .001$ )と有意な正の関連が認められた。「店舗の万引き対策の改善にいかせるといった」は、「挨拶の徹底を行っていききたいと思った」( $r = .702, p < .001$ )、「販売意欲を向上させていききたいと思った」( $r = .644, p < .001$ )、「万引きされやすい商品を知り、店員間で情報を共有していこうと思った」( $r = .733, p < .001$ )、「死角を確認して、防犯マップを作成していこうと思った」( $r = .626, p < .001$ )、「店員間で不審者や手口などの情報を共有していこうと思った」( $r = .658, p < .001$ )、「商品の位置の確認をし、捨てカゴや移動された商品を片付けようと思った」( $r = .599, p < .001$ )、「出入口に注意し、あやしい人が入ってきたら注目しようと思った」( $r = .583, p < .001$ )、「防犯機器をうまく活用していききたいと思った」( $r = .523, p < .001$ )と有意な正の関連が認められた。

動画視聴者において、「良いと思った」は、「挨拶の徹底を行っていききたいと思った」( $r = .672, p < .001$ )、「販売意欲を向上させていききたいと思った」( $r = .722, p < .001$ )、「万引きされやすい商品を知り、店員間で情報を共有していこうと思った」( $r = .655, p < .001$ )、「死角を確認して、防犯マップを作成していこうと思った」( $r = .756, p < .001$ )、「店員間で不審者や手口などの情報を共有していこうと思った」( $r = .641, p < .001$ )、「商品の位置の確認をし、捨てカゴや移動された商品を片付けようと思った」( $r = .598, p < .001$ )、「出入口に注意し、あやしい人が入ってきたら注目しようと思った」( $r = .620, p < .001$ )、「防犯機器をうまく活用していききたいと思った」( $r = .730, p < .001$ )と有意な正の関連が認められた。「勉強になった」は、「挨拶の徹底を行っていききたいと思った」( $r = .751, p < .001$ )、「販売意欲を向上させていききたいと思った」( $r = .778, p < .001$ )、「万

引きされやすい商品を知り、店員間で情報を共有していこうと思った」(r = .632, p < .001)、「死角を確認して、防犯マップを作成していこうと思った」(r = .682, p < .001)、「店員間で不審者や手口などの情報を共有していこうと思った」(r = .650, p < .001)、「商品の位置の確認をし、捨てカゴや移動された商品を片付けようと思った」(r = .664, p < .001)、「出入口に注意し、あやしい人が入ってきたら注目しようと思った」(r = .641, p < .001)、「防犯機器をうまく活用していきたいと思った」(r = .729, p < .001)と有意な正の関連が認められた。「万引き対策への関心が高まった」は、「挨拶の徹底を行っていききたいと思った」(r = .748, p < .001)、「販売意欲を向上させていききたいと思った」(r = .732, p < .001)、「万引きされやすい商品を知り、店員間で情報を共有していこうと思った」(r = .634, p < .001)、「死角を確認して、防犯マップを作成していこうと思った」(r = .728, p < .001)、「店員間で不審者や手口などの情報を共有していこうと思った」(r = .692, p < .001)、「商品の位置の確認をし、捨てカゴや移動された商品を片付けようと思った」(r = .717, p < .001)、「出入口に注意し、あやしい人が入ってきたら注目しようと思った」(r = .663, p < .001)、「防犯機器をうまく活用していきたい

と思った」(r = .808, p < .001)と有意な正の関連が認められた。「店舗の万引き対策の改善にいかせるといった」は、「挨拶の徹底を行っていききたいと思った」(r = .727, p < .001)、「販売意欲を向上させていききたいと思った」(r = .692, p < .001)、「万引きされやすい商品を知り、店員間で情報を共有していこうと思った」(r = .588, p < .001)、「死角を確認して、防犯マップを作成していこうと思った」(r = .675, p < .001)、「店員間で不審者や手口などの情報を共有していこうと思った」(r = .678, p < .001)、「商品の位置の確認をし、捨てカゴや移動された商品を片付けようと思った」(r = .655, p < .001)、「出入口に注意し、あやしい人が入ってきたら注目しようと思った」(r = .711, p < .001)、「防犯機器をうまく活用していきたいと思った」(r = .760, p < .001)と有意な正の関連が認められた。

以上の結果から、全体の評価と対策の実感との関連では、講習会参加者、動画視聴者ともに、正の関連が認められたことから、全体の評価と対策の実感がつながっていることが明らかとなった。したがって、講習会、動画ともにそれぞれの対策のポイントを実感することが、全体の評価と関連することから、警察、万引き防止コンサルタント、保安員、総合防犯設備士と議論しながら抽出したポイントは店舗の万引き

Table 4 動画から得た万引き対策への実感と動画への評価との関連

	良いと思った	勉強になった	万引き対策への関心が高まった	店舗の万引き対策の改善にいかせるといった
挨拶の徹底を行っていききたいと思った	.672***	.751***	.748***	.727***
販売意欲を向上させていききたいと思った	.722***	.778***	.732***	.692***
万引きされやすい商品を知り、店員間で情報共有していこうと思った	.655***	.632***	.634***	.588***
死角を確認して、防犯マップを作成していこうと思った	.756***	.682***	.728***	.675***
店員間で不審者や手口などの防犯情報を共有していこうと思った	.641***	.650***	.692***	.678***
商品の位置の確認をし、捨てカゴや移動された商品を片付けようと思った	.598***	.664***	.717***	.655***
出入口に注意し、あやしい人が入ってきたら注目しようと思った	.620***	.641***	.663***	.711***
防犯機器をうまく活用していきたいと思った	.730***	.729***	.808***	.760***

\*\*\* p < .001

対策への意識向上につながる事が示唆された。

#### まとめと今後の課題

本研究では店舗での効果的な万引き対策推進のために、店舗関係者を対象として、店舗向け万引き防止対策講習会と店舗向け万引き防止対策動画の効果について検討した。その結果、講習会参加者と動画視聴者では、講習会参加者のほうが全体の評価と対策の実感が高いことが明らかとなった。全体の評価と対策の実感との関連では、講習会参加者、動画視聴者ともに、正の関連が認められたことから、全体の評価と対策の実感がつながっていることが明らかとなった。

これらの結果から、講習会や動画は評価も高く、対策のポイントも実感できるものであったといえる。したがって、講習会や動画は店舗にとって万引き対策推進の起爆剤になる可能性が示唆された。特に、評価が高く、8つの対策のポイントを実感できる講習会は店舗での万引き対策推進に有効であると考えられる。近年、エビデンスに基づいた犯罪予防について社会的関心が高まっており (Sherman, 2004)、科学的手法による分析に基づいた万引き防止対策が求められている。したがって、今後、講習会の開催を通して、講習会の開催が難しい場合は動画を通して、エビデンスに基づいた万引き防止対策を普及させていく必要があるだろう。

今後の課題としては、2つ挙げられる。1点目は対象の問題である。今回、講習会に参加した店舗関係者と動画を視聴した店舗関係者を対象としたが、これらの店舗関係者は万引き対策への関心の高い者が多かったと考えられる。実際の店舗には、万引き対策にあまり関心のない万引き被害の少ない店舗も多数存在することから、今後、万引き対策に関心のない万引き被害の少ない店舗の関係者においても同様の効果が認められるのかを検討する必要があるだろう。2点目は、今後の展開である。これまで、様々な調査を行ってきたが、今後は店舗における万引き防止の事例を詳細に検討することも必要だろう。特に、店舗間で共通する問題や悩みなど

の情報をできるだけ地域の店舗同士で共有することで、地域全体で万引き防止に取り組んでいく必要があるだろう。

#### 引用文献

- 「万引きをしない・させない」社会環境づくりと規範意識の醸成に関する調査研究委員会 2009 万引きに関する調査研究報告。
- 宮前淳子・堀江良英・松永祐二・宮前義和・大久保智生 2012 一般高齢者における万引きに関する心理的要因の検討：家族および友人関係、攻撃性、認知症傾向が万引きへの意識に及ぼす影響 地域環境保健福祉研究, 15, 1-8.
- 大久保智生 2012 青少年の万引きに対する規範意識：香川県子ども安全・安心万引き防止事業の取り組みから 青少年問題, 646, 44-47.
- 大久保智生・堀江良英・松浦隆夫・松永祐二・江村早紀 2013 万引きに関する心理的要因の検討：万引き被疑者を対象とした意識調査から 科学警察研究所報告, 62, 41-51.
- 大久保智生・堀江良英・松浦隆夫・松永祐二・江村早紀・永富太一・時岡晴美 2012 万引き被疑者における万引きに関する心理的要因間の関連の検討：家族および友人関係と攻撃性が万引きの心理に及ぼす影響 子育て研究, 2, 13-20.
- 大久保智生・堀江良英・松浦隆夫・松永祐二・永富太一・時岡晴美・江村早紀 2013 店舗における万引きの実態と万引きへの対応と防止対策の検討：香川県内の店長と店員を対象とした聞き取り調査から 法と心理, 13, 112-125
- 大久保智生・堀江良英・松永祐二・永富太一・時岡晴美 2012 万引きの多い店舗はどのような特徴があるのか：万引き防止対策に関する店舗調査から 香川大学教育学部研究報告, 138, 11-21.
- 大久保智生・堀江良英・松浦隆夫・松永祐二・宮前淳子・宮前義和・岡田涼・七條正典 2012 一般の青少年と高齢者における万引きに関する心理的要因の検討：世代によって万引きへの意識はどのように異なるのか 香川大学教育学部研究報告, 138, 1-10.
- 大久保智生・宮前淳子・宮前義和 2012 青少年の万引きに関する心理的要因の学校段階別の検討：

- 家族および友人関係と攻撃性が万引きへの意識に及ぼす影響 生徒指導学研究, 11, 57-67.
- 大久保智生・岡田涼・時岡晴美・堀江良英・松下昌明・高橋護・尾崎祐士・藤沢隆行 2013 万引き防止対策におけるエビデンスに基づく社会的実践サイクル：店舗および店内保安員の調査結果に基づく未然防止のための店内声かけマニュアルの作成とその実施 香川大学教育学部研究報告, 139, 35-51.
- 大久保智生・杉本ゆか・時岡晴美・常田美穂・西原和代 2012 保護者は子どもの万引きをどのようにとらえているのか：保護者の万引きに関する心理的要因の検討 香川大学教育実践総合研究, 25, 69-79.
- 大久保智生・杉本ゆか・常田美穂・高橋護・岡田涼・時岡晴美 2013 万引きの再犯防止につながる保護者の対応の検討：親子関係が万引きした際の対応に及ぼす影響 子育て研究, 3, 34-42.
- 大久保智生・時岡晴美・有馬道久・松浦隆夫・高橋護 2012 万引き防止啓発の動画制作プロジェクト参画による青少年の意識変化について(その2)：動画の視聴者の評価と参画した大学生と中学生の意識調査から 香川大学教育実践総合研究, 25, 57-68.
- 大久保智生・時岡晴美・岡田涼・尾崎祐士・藤沢隆行・堀江良英・松下昌明・高橋護 2013 店内保安員における万引きへの意識と万引きに対する態度の検討：効果的な万引き対策の実践のために 香川大学教育学部研究報告, 139, 27-34.
- Sherman, W.S. 2004 Evidence-based crime prevention: a global view from the U.S. to Japan. Japanese Journal of Sociological Criminology, 29, 82-93.
- 「書店経営」編集部編 1998 書店のための万引防止読本 メディアパル
- 時岡晴美・大久保智生・有馬道久 2012 万引き啓発の動画制作プロジェクトへの参画による青少年の意識変化について(その1)：青少年編「万引きはゲームじゃない」の制作による啓発効果を中心に 香川大学教育実践総合研究, 24, 153-160.
- 時岡晴美・大久保智生・堀江良英・松永祐二 2012 万引き防止対策のエビデンスに基づく実践とその効果：調査結果に基づく店舗向け万引き防止マニユアルの作成とその利用状況および効果 香川大学教育学部研究報告, 138, 75-81.
- 全国万引犯罪防止機構 2010 第5回全国小売業万引被害実態調査報告書